

## 6 大幅減となった公共工事

公共工事は、1990年代後半まで景気浮揚のための内需拡大策として積極的な公共投資予算が編成され、需要面を大きく下支えしてきた。しかし、99年度以降では、財政状況の悪化や景気対策としての有効性が疑問視され減少に転じ低調に推移している。

本県では2000年度頃から、中部国際空港、愛知万博などの大型プロジェクトが進行し、これらに支えられ、横ばい圏内で推移し、02年度は2年ぶりに前年度比プラスに転じた。これは、全国が減少を続けたのと対照的であった。しかし、03年度以降は、国、地方公共団体の予算削減が続き、本県も再び全国同様減少に転じた。04年度は、大型プロジェクト関連の発注が一段落し、05年度も依然として財政状況の悪化が続いており、公共工事費は大幅に減少した。

### (前年度比で2割減となった公共工事)

05年度の本県における公共工事の発注状況を、東日本建設業保証(株)の「公共工事前払金保証統計」からみると、公共工事請負金額は前年度比23.1%減と大幅に減少した。これは、前年度に引き続き、国、地方公共団体などで、財政状況等を受けて抑制が続いたことの影響が大であり、特に04、05年度は前年度比で2割以上の減少となった。

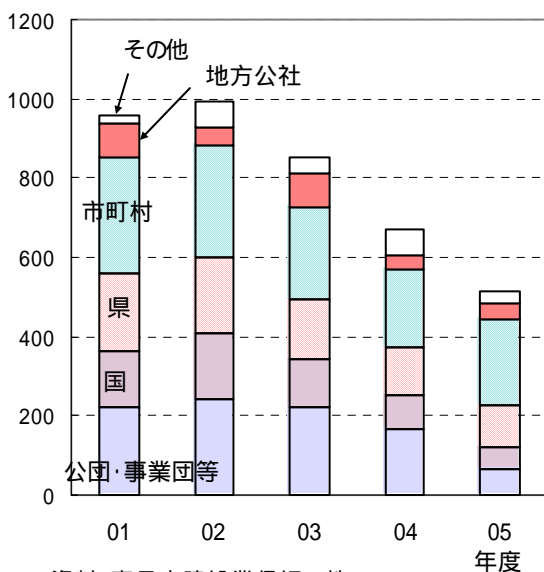
これを発注者別にみると、公団・事業団等が日本道路公団における第二東名高速道路や東海環状自動車道等の大型工事が前年度に終息したことにより、前年度比60.9%減と大きく落ち込み、国は法務省、農林水産省や国土交通省などの事業が減少し32.8%減、県は依然として公共投資の抑制が続いており16.5%減となった。一方、市町村は名古屋市の地下鉄延伸工事や下水道工事及び岡崎市の庁舎建設工事などがあって同13.1%増となり、地方公社は名古屋高速道路公社で増加したものの県道路公社で減少し同3.4%減となった(図表6-1)。

### (全国と比べて減少幅の大きい愛知県)

次に、建設工事受注動態統計調査(国土交通省)により本県の公共工事の全国シェア(契約請負額)をみると、2001年度は5.5%、02年度は5.1%となっており、00年度以来、3年連続で5%台で推移してきたが、03年度は4.7%と4年ぶりに5%を割り込んだ。しかし、04年度は5.2%、05年度は5.1%と2年連続で5%台となっている。なお、05年度の上位5都道府県をみると、北海道(9.9%)がトップで、以下、東京都(7.9%)、愛知県(5.1%)、新潟県(4.7%)、大阪府(3.9%)の順となっている。

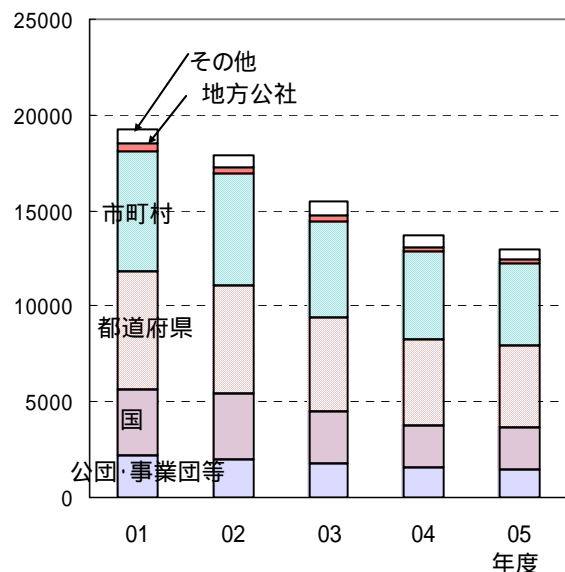
また、全国の公共工事は先に述べたような理由で

図表6-1 発注者別公共工事請負金額(愛知県)  
(十億円)



資料:東日本建設業保証(株)  
「公共工事前払金保証統計」

図表6-2 発注者別公共工事請負金額(全国)  
(十億円)

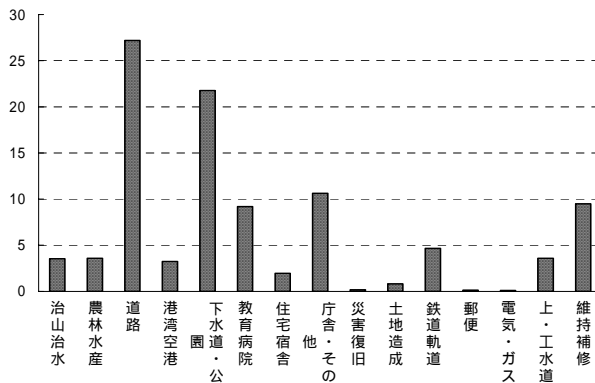


資料:東日本建設業保証(株)  
「公共工事前払金保証統計」

その請負金額は7年連続で減少しており、03年度は前年度比13.7%減、04年度同11.1%減と二桁減であったが、05年度は同5.6%減の減少にとどまった。これは本県が年々減少幅が拡大しているのと対照的である。

本県で行われた05年度の公共工事を目的別構成比でみると、道路が27.2%、下水道・公園が21.8%、庁舎・その他が10.6%、維持補修が9.5%、教育病院が9.2%となっており、この5区分で全体の78.3%を占めている(図表6-2、6-3)。

図表6-3 公共工事目的別構成比(愛知県)

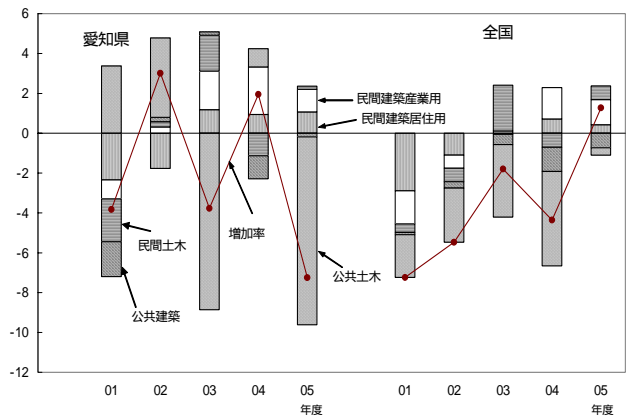


資料：国土交通省「建設工事受注動向総括調査(2005年度)」

### (増加した民間工事)

次に05年度の民間及び公共の土木建築工事を出来高ベースにより「建設総合統計年度報」(国土交通省)でみると、全国では公共土木、公共建築が前年度に比べて減少したが、民間土木、民間建築が増加し、全体では前年度比1.3%増と9年ぶりに増加した。一方、本県では民間建築が伸びたものの、公共土木が同9.4%減となり、全体では同7.2%減と2年ぶりに減少した。全国、本県とも民間は増加したが、公共は減少した(図表6-4)。

図表6-4 工事費増加寄与度(愛知県、全国)



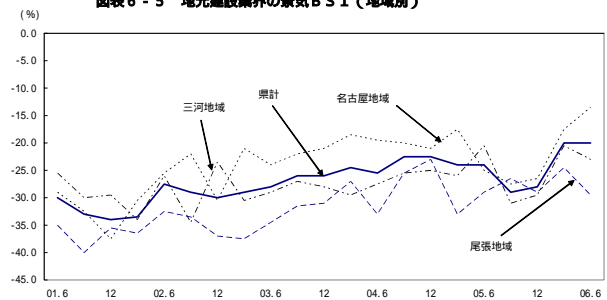
資料：国土交通省「建設総合統計」

### (景況がきびしい地元建設業界)

次に、東日本建設業保証株の「建設業景況調査(愛知県版)」(2006年7月)結果によると、景気BSI(Business Survey Index)は、大型プロジェクト関連等が終息したことにより、05年後半に入ってから悪化したが06年になって持ち直している。しかし、90年4-6月期以来06年4-6月期まで連続してマイナスとなっており、地元建設業界の景況は依然低迷を続けている。

地域別にみると、名古屋地域は改善しているが、尾張地域と三河地域は再び悪化しており、特に尾張地域は厳しい状況となっている(図表6-5)。

図表6-5 地元建設業界の景気BSI(地域別)



注：景気BSI = (前期に比べ、業況が「良い」-「悪い」の企業の割合) / 2  
資料：東日本建設業保証(株)「建設業景況調査」